

建設通信新聞

約90人が最新 計測技術学ぶ

SPPの会東北ら・
空間情報活用講演

スぺーシャリスト(SPP)の会東北支部(千葉一博支部長)、日本測量協会東北支部(渥美雅裕支部長)は、ジオメトリストの会東北支部、宮城県測量設計業協会との共催で、仙台市の宮城県建設産業会館で2024年度(第5回)空間情報活用講演会を開いた。写真。それぞれの会員技術者ら約90人が参加し、最新の

計測技術などを学んだ。

主催者を代表して千葉支部長は「講演を通じて進化する技術を共有してほしい。災害対応に当たり、われわれの知識や技術が命や生活を守るために大きな役割を果たすことを常に意識し、学び続けることが大切だ」と呼び掛けた。

講演では、中川雅史芝浦工大工学部教授が「都市のデジタルツインに対応する測量のデザインー進化×教育×データサイクル」、佐藤彰東北地方整備局企画部技術調整管理官は「同局における災害対策等について」、リーグルジャンの佐々木公一氏は「ハイエンドモデルTLS/UAV LIDAR最前線」をテーマにそれぞれ解説した。

スぺーシャリストの会東北支部会員企業講演もあり、寒河江測量設計事務所の大沼啓一氏が「三次元測量技術による立体的な災害対策」、ダイワ技術サービスの佐々木茂氏は「MMS導入決断と結果から見た設備投資課題」と題し、3次元計測機器導入の利点などを説明した。

